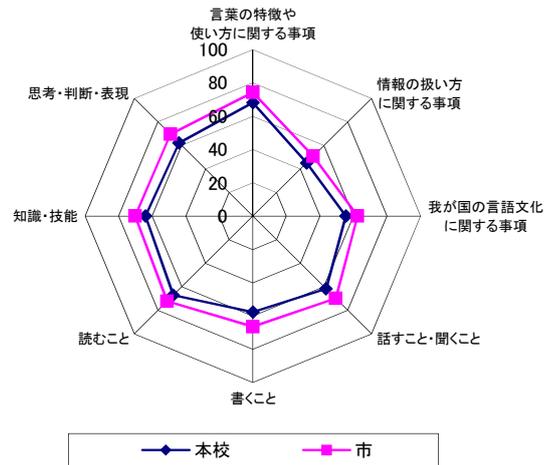


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.2	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	45.3	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	55.4	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	61.7	69.9	69.7
	書くこと	57.7	66.4	64.6
	読むこと	67.1	72.3	71.0
観点別	知識・技能	64.0	70.1	70.0
	思考・判断・表現	62.3	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

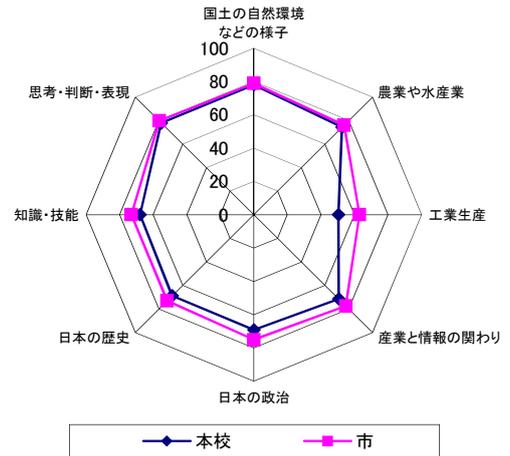
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>○三字の熟語の成り立ちについては市の平均正答率より3.4ポイント上回った。</p> <p>●第5学年に配当されている漢字の書き取りに課題が見られる。無回答率も多い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・授業の中で、思いや考えを書く時間をじっくりとったことで、自分の言葉で述べるができるようになっている。しかし、漢字の書き取りが身に付いておらず、定着に課題が見られる。文章を書く中で、既習の漢字を意識して使わせるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率から4.9ポイント下回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、条件に合わせて文章を書く問題では、市の平均正答率から6.2ポイント下回っている。解答状況を見ると文章から条件通り書き抜くことができていないことが多い。</p>	<p>・字数制限をつけて文章の要点をまとめる練習をしたり複数の情報をまとめたりすることを授業で行い、定着を図る。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>●漢字の意味を表す部分と音を表す部分の組み合わせを条件として漢字を選択する問題では、市の平均正答率から7ポイント下回っている。</p>	<p>・漢字指導の際に漢字の成り立ちについて説明したり、学習した漢字を様々な条件で分類したりする活動を行うなどして定着を図る。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>○話し手の目的に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が97.3%で、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●話し合いをする場面の音声情報を聞いて、登場人物の立場や意図を考えてアドバイスをする問題では市の平均正答率を11.9ポイント下回っている。</p>	<p>・話し合い活動で、「計画的に話し合う」ことを意識して行えるように進行の仕方を掲示したり、いつでも手元で確認できるようにカードを作成したりして、児童主体の活動ができるように支援する。また、必要な情報を聞き取ってメモを取る練習を繰り返し、定着を図る。</p>
書くこと	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>○考えが伝わるような表やグラフを選択する問題では、正答率が90.5%で、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●指定された長さで文章を書く問題では、市の平均正答率を20ポイント近く下回っている。</p>	<p>・段落の構成についても意識させ、文章を作成する際に相手に伝わりやすいかどうかを考えるよう習慣づける。</p> <p>・朝の学習や家庭学習などで字数制限のある自由作文を取り入れて気軽に文章を書く活動に取り組み、文章を書くことへの抵抗感をなくすようにしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>○登場人物の行動や心情を描写を基に捉える問題では、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●他者が問題文を読んだ感想を伝えあっている文章を読み取り、空欄に当てはまるものを選ぶ問題では市の平均正答率から13.8ポイント下回っている。</p>	<p>・文章を素早く正確に読み取ることができるように、言葉の意味や文法的な構造について繰り返し指導し、定着を図る。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.1	78.9	75.4
	農業や水産業	74.3	76.1	71.2
	工業生産	50.5	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	71.6	77.6	59.7
	日本の政治	69.3	75.0	79.3
	日本の歴史	68.9	73.1	72.8
観点別	知識・技能	67.8	73.0	71.4
	思考・判断・表現	78.0	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

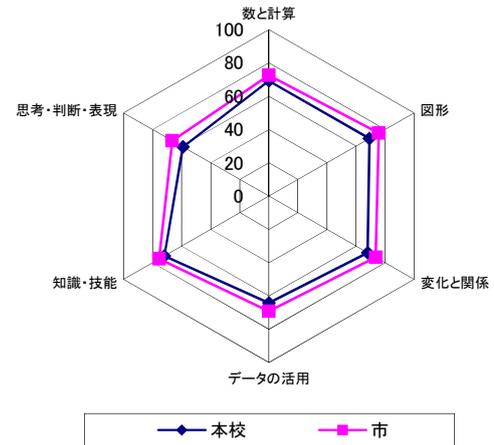
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○中国の国旗と位置についての問題の正答率は、市の正答率を4.4ポイント上回り、よくできている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解から地図を読み取っているかの問題の正答率は市の正答率を3.8ポイント下回り、知識の定着に課題が見られる。	・日本の地形の名称と位置などの理解が不十分なため、日本パズルや白地図についての補充プリントで定着を図ったり、教室に日本地図などを掲示したりして児童が目にする機会を増やしていく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○都道府県の位置を理解して米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題についてはよくできている。	・無記入の児童もいたため、都道府県パズル、白地図や各都道府県の名産等、興味が出るような具体例を多く示すなどして定着させていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○日本の鉱産資源の輸入についての資料の読み取り問題については、市の正答率よりやや低い。 ●自動車工場の作業工程や大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る問題は市の正答率より17.7ポイント下回った。	・工業製品についてイメージがしづらい部分があるので、具体例を多く出すなどして定着させていきたい。 ・地図帳や資料集、またはタブレット端末を使い、動画や写真を見て、自動車工場の作業工程や大工場と中小工場についての理解を高められるようにする。 ・工場見学等を利用し、工場の作業工程の流れの理解を深められるようにする。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題は、市の正答率より9.4ポイント下回った。	・資料から分かったことを発表する機会を増やす。 ・情報社会の中で便利になっていく私たちの生活で、利用しているものや新たに利用すると便利になるものの具体例を出し、これまでの経験から利便性について話し合うようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○非核三原則についての理解の正答率は市の平均正答率と同程度である。 ●日本国憲法や裁判の仕組みについての理解は市の平均正答率より低い。	・日本国憲法についての基本的な用語は確実に覚えられるようにしていく。また、国会・内閣・裁判所の役割・関連を理解させるために、新聞やニュースの記事などを授業に活用し、時事問題への関心を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率よりやや低い。 ○弥生時代のむらや人々の暮らし、元寇についての理解はできている。 ●室町時代の文化や武家諸法度についての理解に課題が見られる。	・補充プリントなどで繰り返し学習する。 ・資料集や教科書の一覧を使い、時代ごとの変化や流れの理解を深めさせるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.2	72.6	73.1
	図形	69.3	75.7	74.7
	変化と関係	68.0	73.6	66.1
	データの活用	64.2	69.2	70.7
観点別	知識・技能	71.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	59.2	66.5	67.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

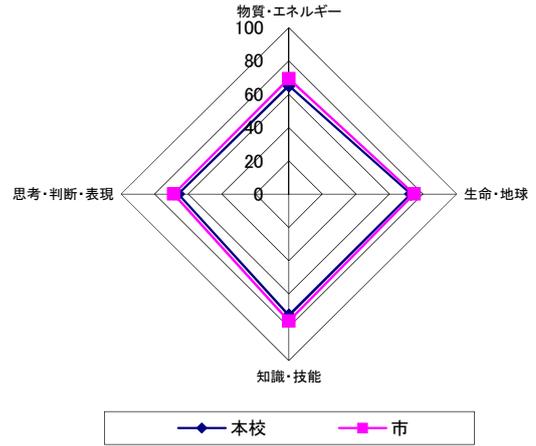
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりやや低い。</p> <p>○小数や分数の計算は市の平均正答率より高い。</p> <p>●小数の文章問題を解くために式を立てる問題は、市の平均正答率より9.5～15ポイント下回った。</p> <p>●文字の式は市の正答率より7ポイント程度低い。数量の関係を数直線に表すことや図を見て小数倍の文章問題を解くための式を選択すること、2つの文字を使って表された式について一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題に課題が見られる。</p>	<p>・基本的な計算練習を継続するとともに、文字を使った式で文字の値を求める計算練習や文字を使った立式の練習に重点を置く。</p> <p>・問題解決をする時の手段として、各学年の授業で、図をかいたり数直線を用いたりして数量関係を視覚的に捉えて考え、立式できるように指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○合同な三角形の作図や展開図を組み立てたときに重なる頂点、対称な図形、直方体の体積の求め方は理解できている児童が多い。</p> <p>●平行四辺形の面積を求める問題や線対称な図形に対応する点を選択する問題に課題が見られる。</p>	<p>・5年生の学習内容である平行四辺形の面積や三角形の内角の和や外角の大きさ、6年生の学習内容の線対称な図形の性質など基本的な内容を復習をする時間をとる。</p> <p>・図形の面積や体積を求める公式など、各学年で学習する内容を確実に身に付けられるように、繰り返し指導する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の正答率より低い。</p> <p>○表の面積と人数から「最も混んでいる場所」を選択する問題の正答率は市より5.1ポイント上回った。また、「半分」が「50パーセント」のことであることもほとんどの児童が理解できている。</p> <p>●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題に課題がある。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習などで繰り返し学習し、定着を図る。授業でも、速さの単位の理解させる際、秒速や分速、時速に直す練習問題にも重点を置いて指導するようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の正答率より低い。</p> <p>○円グラフを読み取ることや平均値、最頻値、度数分布表について多くの児童が理解できている。</p> <p>●円グラフから割合を読み取り基準量から比較量を求める問題や、中央値という言葉を使ってクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明する問題に課題がある。</p>	<p>・基準値から比較量を計算する問題や文章問題から代表値を選択し、その理由を説明する学習を積み重ねていく。特に、中央値の理解を深めるような文章問題に重点を置く。</p> <p>・今後も自分の考えを書く活動と伝える活動を多く取り入れ、筋道を立てて説明する力を育てる。また、学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.1	69.3	65.7
	生命・地球	72.7	74.7	77.8
観点別	知識・技能	72.9	76.2	76.4
	思考・判断・表現	65.9	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりやや低い。</p> <p>○物のとけ方では、水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを正しく理解している。また、ろ過の仕方では、誤りを適切に指摘できている。</p> <p>●電流のはたらきでは、電磁石と棒磁石に共通する特徴を指摘する問題で、誤答が見られた。</p>	<p>・理科に関する関心が高く、進んで実験や観察に取り組むことができるので、実験の意図をより明確にしてから行うことで、結果を見通したり、考察を深めたりする力を伸ばしていく。</p> <p>・一人一台端末を学習時に積極的に活用し、結果を写真や映像に記録したり、考察や話し合いの場面で活用したりしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じある。</p> <p>○植物のつくりとはたらきでは、植物の葉のでんぷんをつくるはたらきと日光の関係を調べるために、対照実験を行う理由を正しく答えることができた。</p> <p>●月と太陽では、月が輝いて見える理由を答える問題や三日月のような形が見えるときの位置を答える問題で正答率が低かった。</p>	<p>・実験を構想する上で同じにする条件と変える条件をはっきり区別することで、より適切な実験ができるようにする。</p> <p>・月と太陽の学習では、満ち欠けの仕組みや位置関係を正しく理解していなかったため、映像資料を活用したり、繰り返し学習したりすることで定着を図るようにしていく。</p> <p>・一人一実験など一人一人の学びを重視することで、より実感を伴った理解ができるようにしていく。</p>

宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICTを活用して児童が主体的に学習に取り組む授業の工夫	学習過程での情報収集、整理分析、情報共有、表現するといった学習場面に応じたICT活用の工夫。 ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。 ・考えや調べたことを提示しながらの話し合い活動。	「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」の肯定的回答は3～6年の全部で市の肯定的割合を上回った。さらに「パソコンを使って相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」でも市の肯定的割合を大きく上回った。一人一台端末を活用した学習を進めてきた結果と思われる。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	6月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間と学習内容を記入するほか、保護者の励ましや助言などを書いていただき提出するよう指導する。	「宿題はきちんとやっている。」の肯定的割合は全体的に高いが、1・3年生以外は市の肯定的割合を下回った。「自分で計画を立てて学習している。」については5年生以外は市の肯定的割合を大きく上回る結果となった。「強化週間」などにカードに記録する活動などを通して自分の学習を振り返ることができたためと思われる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県の調査とともに算数の「数と計算」の領域において平均を下回っていたが、市の調査では、5月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。小数のかけ算やわり算、分数のたし算(通分)やかけ算・わり算では、市の平均正答率を上回った。次年度も継続して、朝の学習や家庭学習の充実を図ったり、前学年までの内容を復習する機会を設定したりするなどして、基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を行う。

・市の調査において、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は市の平均を下回るものの、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は、5年生以外は、市の平均を大きく上回る結果となった。6年生では、国の調査について、1日当たりの家庭学習時間1時間以上と回答した児童は58%であったが、市の調査では、約73%で増加した。次年度も、引き続き「家庭学習強化週間」を実施し、学年に応じた自主学習に取り組む指導を充実させる。

・国の質問紙の調査で「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。」の肯定的割合が市や国よりも低い。また、「目的や意図に合わせて理由を明確にしながら、書き表し方を工夫して書く」など条件に合わせて書く設問で、国や市の平均を下回った。さらに、4～6年生は、国・県・市の調査ともに記述式設問の無回答率が市の平均と比べて高く、「書く」ことへの苦手意識の強い児童が多く見られる。自分の考えを書く場を多く設定するなど自分の考えを分かりやすく表現する指導を充実させ、「書く」ことへの抵抗感をなくしていくように努める。

・一人一台端末を活用した学習を進めてきた結果、市の調査では、「パソコンのキーボードを使って、文章を入力することができる。」「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」「パソコンを使って相手にわかりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」で3～6年生が市の肯定的割合を大きく上回った。一人一台端末での文章入力への抵抗が少ないことから、既習の漢字を使う、字数を決めて、段落に分けるといった条件に合った文章を書くトレーニングにも活用し、目的に応じた、分かりやすい文章が書けるようにしていきたい。